

特集 ●

遣唐使像を問い直す

【インタビュー】遣唐使研究の現在 山中史生
 大唐帝国が求めた日本の牛角 山崎寛士
 聖書 遣唐使派遣と「国風文化」 皆川雅樹
 正倉院Q&A 編集委員会
 生徒は教科書をどのように利用して歴史を考えたか 加藤公明
 「藤太アサ村雁強制移住事件」を通じて考える先住民との関係 千葉誠治
 子どもの目 シリアの人を恨まない 本庄登

歴史地理教育者協議会 編集 発売

地域

新宿の今昔——新宿裏町人生探訪

中條 克俊

1 ふるさと新宿

経済白書で「もはや戦後ではない」と言われた一九五六年に生まれたわたしたちの世代は、将来に夢と希望を持つことのできる「黄金期の中学生」ともはやされ、わたしのふるさと新宿は、巨大建築東京都庁舎（一九九一年）をはじめさまざまな超高層ビルが林立する新都心となりました。その反面、出身校の新宿区立淀橋第七小学校と淀橋中学校は少子化の波にさらわれて廃校となり、近くの団地では独居老人への見守りが現実的課題となっています。

幼少年期の新宿駅頭では、白装束の傷痍軍人（多くは在日韓国・朝鮮人）がアコーデオンの悲しい音色を

流していました。箱根山（尾張徳川家下屋敷の築山・標高四四・六m）が残る今の戸山公園とその周辺には、陸軍戸山学校、生体実験をおこなった七三二部隊（石井部隊）と関連ある陸軍軍医学校がありました。子ども心にも、崩れかかった防空壕と古びた旧陸軍病院の建物に戦争の傷跡を感じ取ることができました。同時に、男の子たちは淀橋浄水場（二八九八〜一九六五年）跡地での戦争ごっこに熱中しました。浄水場の巨大なデコボコ跡地に、あの無機質な超高層ビル群が建ち上がる前の話です。

新宿区は人口約三三万人の割強が外国人という、内なる国際化が進む社会です。裏通りに淫靡な連れ込み宿の並んでいた大久保界限は韓流ブームに乗り、コ

リアタウン、さらに中東、東南アジア、アフリカ出身者の住む多文化共生社会へと生まれ変わりました。一方、ここ数年の大久保通りでのヘイトスピーチは社会問題化しています。わたしのふるさと新宿は雑多な社会であり、そこには形だけの表の顔(明)ばかりでなく、人情の機微に触れる裏の顔(暗)があります。

これより、新宿裏町人生探訪のはじまりです。

2 内藤新宿

新宿駅が開業した一八八五年当時の地形図を見ると、高層ビル群のある西口一帯は郊外の田園風景そのものです。戦後しばらくまで、新宿の顔は宿場町内藤新宿のあった東口にありました。

徳川家康の江戸入城(二五九〇年)の先払いとして高遠藩(現長野県伊那市)二代目藩主内藤清成は江戸城周辺の調査に奔走し、その功績によって約二〇万坪の屋敷地(現新宿御苑)が与えられました。その後、浅草商人(浅草の遊郭の経営者)らが甲州街道の江戸―高井戸間に宿場を開設したいと願ったところ、一六九八年に藩主の名を取った内藤新宿が開設されました。大木戸(四谷)から追分(現伊勢丹)まで多くの旅籠屋が並

酷使されて死んだ飯盛女は、着物、髪飾り、身につけているものすべてを取り上げられ、晒し木綿にお腰一枚というあわれな姿で、籠にこもられて寺に投げ込まれました。その数およそ三〇〇〇人。カラスがその死体に飛びかかり目玉を突くこともあり、夜になると燐火が燃えて寺の名物になったとも言われています。さすがに強欲な旅籠屋の主人たちも飯盛女の共同墓地を建てねばと考えたのでしょう。この投げ込みは、江戸のしきたりが続く明治半ばすぎまで続きました。

ここには高さ九〇cmの「旭地藏」(一八〇〇年)もあります。元々は後述する旭町の天龍寺近くの玉川上水脇に安置されていましたが、道路拡張で現在地に移されています。台座には「三界万靈旭地藏」と刻まれており、台下に寛政二二(一八〇〇)年から文化一〇(一八二二)年までの年号と一八人の戒名が刻まれています。七組の男女の戒名は一組ずつ並べられ、玉川上水に身投げしての情死者であったと言われています。たとえば、町人定吉(二七歳)と飯盛女かね(二七歳)は、この世をはかなみ身投げしたのではないかと考えられます。地藏の左側面に、移転供養した旅籠屋一同の名前が自己弁護のように刻んであります。

ぶまでに栄えたのですが、一七一八年に風紀上の理由で宿場町は取りつぶされています。一七七二年、請願により再興されると、幕府は一五〇人の飯盛女(給仕をする年季奉公の遊女)と五二軒の旅籠屋の営業を許可しました。

3 飯盛女と投げ込み寺

花園神社近くの靖国通り沿いに「投げ込み寺」と呼ばれた成覚寺があります。そこに「子供合理碑」(万延元年・一八六〇年建立)があります。旅籠屋(女郎屋)の



成覚寺の「子供合理碑」
飯盛り女を供養する碑。

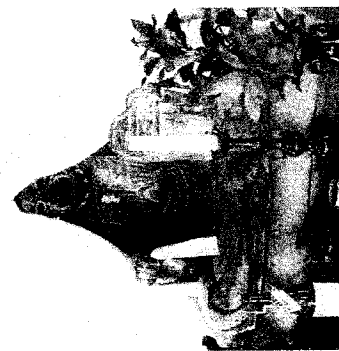
(撮影：中條克俊)

主人は飯盛女を抱え主の子供という意味で「子供」と呼んでいました。飯盛女は年季奉公の人身売買であり、犬猫にも劣るひどい扱いで、まさに性奴隷でした。

「子供合理碑」の前で若い女性が、飯盛女と呼ばれた女性たちの無念の死に思いを寄せてひっそりと手を合わせている姿を、偶然眼にしたことがあります。歴史は時代を超えて現代人の心に訴える、こういうのが過去との対話なのだとしみじみ感じ入りました。

4 遊女の心のよりどころ

成覚寺の隣は正受院です。幕末の嘉永年間に安置された高さ七〇cmの奪衣婆像が門前で迎えてくれます。祈願のお参りに綿が奉納されたことから「綿のお婆さん」と親しまれています。奪衣婆とは、三途の川の渡し賃である六文銭を持たずにやってきた亡者の衣



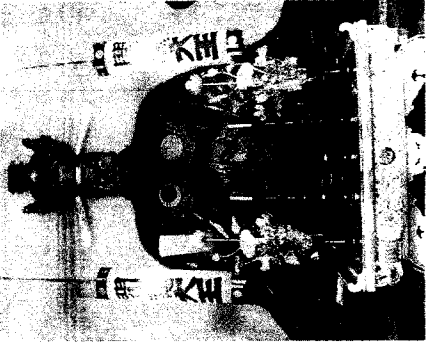
正受院の奪衣婆像
木造で、片膝を立てて右手に衣を持っている。

(撮影：中條克俊)

服を剥ぎ取る恐ろしい形相の鬼のことで、人を引き寄せ衣服を脱がせることから、宿場の遊女

太宗寺の閻魔大王

境内に隠れキリシタンが秘かに礼拝したとされるキリシタン燈籠がある。



(撮影：今野晃一)

からも信仰され、心のよりどころとして奪衣婆に何かを語りかけている姿が思ひ浮かびます。

正受院から新宿通りに向かう途中に内藤家菩提寺の太宗寺があります。大きなヤットコを傍らに置いて、高さ五五〇cmの閻魔像が参詣者を待っています。閻魔の横には、ちゃんと奪衣婆が待ち構えています。嘘をつくとき「あのヤットコで舌を抜いてもらう」と母親がわが子に諭す教育の場でもあったかもしれません。

5 公娼制度と進新後の新宿

一八七二(明治五)年のマリア・ルス号事件の裁判をきっかけに日本の娼妓は人身売買だと批判されると、日本政府はあわてて娼妓解放令を出しました。

しかし、公娼制度はなくなりませんでした。一八七

三年の「貸座敷渡世規則」(娼妓に座敷を貸す形での公娼制度)によつて、吉原・品川・新宿・板橋・千住の五か所で新しい形態の売春営業が公認されたからです。一九〇二(明治三五)年になると新宿通りの両側に五三軒もの一大遊郭ができあがり、大きな構えの池美濃、大美濃(現伊勢丹)が大繁盛しました(野村敏雄『新宿裏町三代記』青蛙選書、一九八二年)。性奴隷制度とも言える公娼制度の延長線上に、アジア太平洋戦争における日本軍「慰安婦」、戦後の占領軍「慰安婦」(R.A.)という発想が生まれています。

6 芥川龍之介と新宿

芥川龍之介の父は新宿の耕牧舎という牧場主で、一八八八(明治二一)年より成覚寺から花園神社近くまでの約三〇〇〇坪の土地で牛を飼育していました。龍之介は第一高等学校に入学した一九一〇年から東京帝国大学入学まで、ここに住んでいます。

しかし、一九一三年、臭気が強く周囲の環境にそぐわぬと警視庁から移転命令が出されて牧場は廃業に追い込まれ、その跡地は「牛尾の原」と呼ばれた原っぱとなりました。

一九一八年、街道筋の遊郭(貸座敷)を一か所にまとめて移転せよとの命令が出されます。その移転先は牛尾の原でした。内藤新宿は明治期も花街として栄えていましたが、遊郭を耕牧舎跡に集めることになったのです。皇室御料地(現新宿御苑)へ行く道筋に遊郭があるのは畏れ多いというのが、真の移転理由だと考えられます。青年期をここで過ごした龍之介の眼には、花街はどのように映っていたのでしょうか。

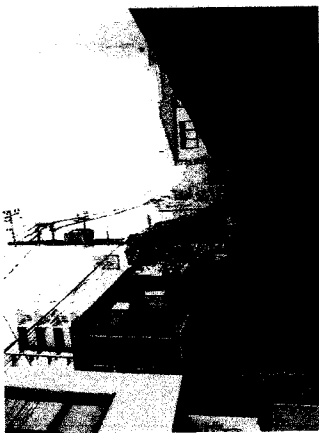
7 旭町と新宿高校生

勢丹を接收し、屋上には星条旗が翻っていました。一階は米兵用のスケートリンク、三階以上は米軍の『星条旗新聞』関係が使っていました。伊勢丹近くにあった都立新宿高校のグラウンドは進駐軍の隊列訓練に使われ、夜になると校舎が「パンパン」(米兵相手の女性)の仕事場になりました。

校舎のすぐ裏手は、細い通路が続くドヤ街の旭町(現新宿四丁目)です。ドヤとはヤド(宿)の倒語で、木賃宿＝簡易宿泊所を意味する隠語です。木賃宿とは、もともと芸人や行商人が食料持参で薪代を払って宿泊した宿のことです。江戸城の裏鬼門鎮護として一六八三年に建てられた天龍寺の門前に、大道講釈、かつぼれ、ちよぼくれ、軽業、住吉踊り、あほだら読みなどの芸人が住みついたことが旭町の木賃宿の始まりです。上京したばかりの作家林芙美子も旭町に足を踏み入れ、「新宿の旭町の木賃宿へ泊まった。石がけの下の雪どけで、道があんこのようにこねこねしている通りの旅人宿に、一泊三十銭で私は泥のようなからだを横たえることができた」(放浪記)と記しています。三畳間の壁は新聞紙貼り、布

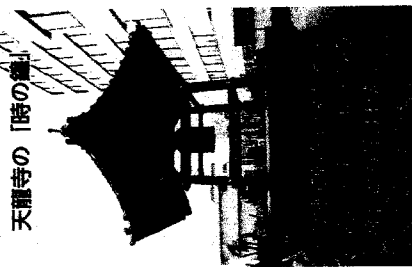
旭町(現新宿四丁目)の今

今に残る昔ながらの古い宿。「御一泊1800円」とある。道の右側は天龍寺墓地。宿の左側は新宿高校グラウンド。



(撮影：中條晃俊)

戦後、アイケルパーガー率いる米軍第八騎兵師団第一師団六四部隊は新宿伊



天龍寺の「時の鐘」

(撮影：今野晃一)

団は垢光りしていました。

わたしが所属していた新宿高校水泳部のOBから聞いた話です。戦後、旭町の簡易旅館に「パンパン」が住み、夏の暑い夜にはどこからか体育館のマットを持って来て、プールを露天の安直ホテルに早変わりさせていたといいます。当時の水泳部員は、プールサイドに点々としてある米兵との前夜の遺物であるコンドームを拾ってから練習を始めるのが通例でした。俱利伽羅紋のおにさんが手ぬぐいと洗い桶を持って登場することもありました。

次の話は、敗戦から二五年後の一九七〇年ごろのことです。何かの水泳大会の時、プールでアナウンサーが「〇〇コース、今井さん」とコールしたら、旭町から石が飛んで来ました。どうやら「今井(いまい)」が旭町の下ヤ街の人たちには「淫売(いんばい)」と聞こえたようです。

貧民窟と見下された旭町ですが、日中働く児童のため旭町分教場が大正年間に建てられています。子どもらの綴り方に感銘した作家菊池寛は、欠食児童の多い分教場の卒業式に参加して、教育の機会均等こそ重要な社会政策だと看破しています。旭町には旭町なり

郎率いる紅テント公演(一九六七年)や首にへびをからませる蛇女などの見世物興業が盛んでした。藤圭子「新宿の女」の歌碑やなぜか二宮尊徳像(四谷五小から移転)がある芸能浅間神社、男性器をシンボルとする夫婦和合の威徳稻荷神社が敷地内にあります。この花園神社とお隣のゴールデン街一帯は、赤線に対して無認可売春地帯の青線と言われていました。

9 赤線そしてゲイタウン

戦後すぐに、アメリカに頼まれもしないのに、国家公認の売春組織といってよいRAA(特殊慰安施設協会)がつくられています。「職員事務募集」の仕事内容は占領軍「慰安婦」(米兵の性の相手)だったのです。アメリカの女性団体の抗議でRAAは半年余りで廃止されましたが、働くすべのない多くの女性は「パンパン」「オンリー」(米兵の愛人)となり、特殊飲食店街(風俗営業が認められた地区)での売春に流れていきました。特殊飲食店街は地図上に赤線で囲まれたことから赤線と呼ばれ、内藤新宿の遊郭地帯(現新宿二丁目)はそのまま赤線地帯となりました。二階がその営業場所となっているカフェ、一杯飲み屋が約一〇〇軒ありました。

のたくましい歴史があり、それを切り捨てては正しい歴史を伝えることはできません。

敗戦直後の新宿高校生は、占領下のすさまじい社会状況とその底辺に生きる人々の存在に社会を見る眼が開かされたことでしょう。今の新宿高校生はこの歴史を知っているでしょうか。

8 花園神社

内藤新宿の総鎮守は花園神社です。今でも一月になると酉の市が開かれてにぎやかです。元は徳川屋敷の下屋敷内にあり、多くの花が咲き乱れることから花園稻荷神社、一九六五年に花園神社となっています。

かつては唐十



花園神社

内藤新宿の総鎮守。境内に藤圭子の唄「圭子の夢は夜ひらく」の碑がある。

(撮影：今野晃一)

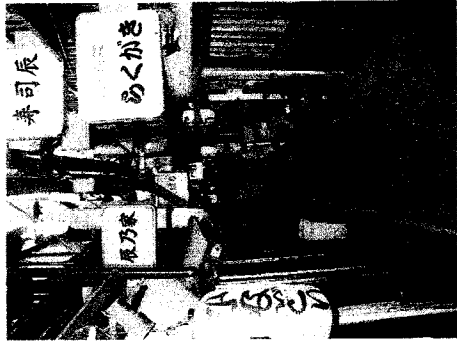
一九五八年、売春防止法の完全施行により赤線の街は幕を閉じ、ゲイタウンの歴史が一九六〇年代半ばに始まります。空き家となった赤線の店がゲイバーとなったのです。面積〇・一坪の空間はホモセクシユアル、女装・非女装トランスジェンダーが集まる場所となり、二四〇mのメインストリートにはゲイバーが約四五〇軒あります。新宿二丁目には、遊郭、赤線、ゲイタウンと、性風俗の最前線地帯の歴史が刻み込まれています。

10 焼け跡闇市・ゴールデン街・歌舞伎町

新宿駅一帯は、一九四五年五月二五日の空襲で丸焼けとなりました。ところが敗戦から一か月もたたない九月七日、「光は新宿のマーケット街より」の尾津組マーケット(東口「中村屋」「高野」あたり)がオープンしています。これが闇市のはしりで、続けて和田組(東口)、野原組(東口)、安田組(西口)が縄張りを仕切りました。

皇族内閣と言われた東久邇宮稔彦元首相も、皇籍離脱後の一九四七年六月に新宿西口で商売を始めています。「人生の第一歩からやり直したい。その第一歩が露

新宿西口思い出横丁
新宿蘭市の名残がある路地酒場。



(撮影：中森克俊)

店商人だと
思っている。
前垂れ
をかけて人
生勉強のス
タートを切
る覚悟だ」
と蘭市の商
売を始めた

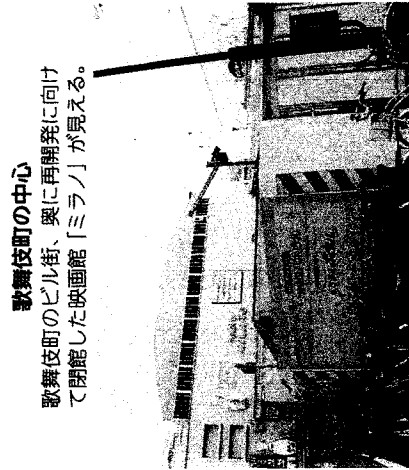
のです。最初は「宮様の出したお店」だと大繁盛しましたが、正規品を正規価格で販売してつぶれてしまいます。懲りずに喫茶店を開いたものの閑古鳥、ポンせんべいの機械販売をするも殿様商売で結局うまくいきませんでした。

この蘭市の雰囲気を残しているのは「新宿西口思い出横丁」こと、通称「シヨンベン横丁」だけとなりました。約二〇〇〇平方メートルの敷地に四棟の木造長屋が建ち並び、その中に居酒屋や定食屋など約七〇店が密集しています

焼け野原となっていた新宿の復興は、テキ屋（露天商）組織の蘭市を抜きに語ることはできません。本来

行政がやるべきであった瓦礫の山を整理して食を供給する仕事をテキ屋がおこなったのです。割り切れないのは、復興の見通しがつくや用無しと判断されたテキ屋が露天整理という名で追放されたことです。彼らは仕方なく花園神社近くに移転しました。これが現在のゴールデン街の始まりです。昼間に外国人が観光目的で路地裏を散策している姿は今や珍しくありません。

新宿区役所を挟んでゴールデン街の反対側に、日本一の繁華街である歌舞伎町があります。この地にはも



歌舞伎町の中心
歌舞伎町のビル街、裏に再開発に向けて閉館した映画館「ミラノ」が見える。

(撮影：今野地一)

ともと広大な沼
がありました
が、淀橋浄水場
建設時の残土で
その沼を埋め立
てて府立第五高
等女学校（現都
立富士高校）が
建設されました。戦後、焼け
野原となった女
学校跡地に歌舞

伎劇場「菊座」建設計画が立てられた時、安井誠一郎都知事（当時）が歌舞伎町の名付け親となりました。財政難でその計画は中止されましたが、町名はそのまま残ったのです。約四〇〇〇店舗（その一割はボルノ業者）がひしめく巨大歓楽街は、新宿コマ劇場跡地の再開発によってさらに膨張し続けています。

11 新宿西口フオークゲリラと野宿生活者

一九六八年一〇月二一日、新宿駅東口でベトナム反戦を掲げた新宿騒乱事件が起きました。反戦のうねりは、翌年になると新宿駅西口地下広場でのフオークゲリラとなって現れます。広場は「ウィー・シャル・オーバー・カム」などのプロテストソングやフオークソングを歌うたくさんの若者たちで埋め尽くされました。新宿駅方面からワーツという塊となった声が自宅にまで聞こえてくると、「危ないから新宿駅には行くな」と思春期を迎えた私に母が諭したのを覚えています。歌声のとどろいた「広場」は「通路」と名称変更され、集会は開くことができなくなりました。

高校入学の一九七二年には、「日本列島改造論」の田中角栄首相が誕生し、「いけいけどんどん」の絶頂期を

迎えました。高校二年になると石油ショックが起こり、あつという間に高度経済成長時代は閉幕しました。その後の新宿高層ビル街には、段ボールハウスの野宿生活者が列をなして寝ている姿が目立つようになりました。新宿駅西口から新宿中央公園に通じる地下通路は、「一億総中流」から「格差社会」へ移行する日本社会の縮図となりました。どうとう行政によって地下通路から野宿生活者は強制排除されることになりました。そこには血の通った生活弱者の救済という視点は見えてきませんでした。

歴史的重層性のある新宿で生まれ育った私にとって、今回の「新宿裏町人生フィールドワーク」（社会科授業づくり講座主催、二〇一四年一〇月二五日実施）は過去の自分探しの旅でもありました。そして、「普段見ている景色が時代を超えて何次元にも広がることをフィールドワークで体験することができました」という参加者の感想にわたしはうれしくなりました。

【参考文献】

- 小沢信男『東京骨灰紀行』（筑摩書房、二〇〇九年）
- 都立新宿高校同窓会誌『朝霞』（No.45、48、No.50）
- （ちゅうじょうかつとし、埼玉県朝霞市立朝霞第三中学校）